

## 競 技 注 意 事 項

本競技会は 2022 年日本陸上競技連盟競技規則と本大会申し合わせ事項により行う。

2022 年 1 月 1 日の WA の競技規則 TR5 の改正と新たに「競技用靴に関する規程」が導入されたことに基づき、靴底の厚さのチェックは実施しない。ただし、審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ、競技者はその指示に従わなければならない。明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズは、チェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。

### 競技用靴・靴底厚さ表

種 目	ソールの最大厚さ	要件・備考
フィールド種目(除:三段跳)	20mm	全投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (800m 未満の種目、ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m 以上の種目、障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じとする。
道路競技(競走、競歩)	40mm	

※フィールド競技用靴における「靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。」の規定については適用除外とするが、その他の規定(靴底最大の厚さ)は遵守すること。

### 1. 競技場への入場について

- (1) 入場の際は『部員登録証』を提示すること。初入場は検温のため、1階中央エントランスより入場すること。退場・再入場はマラソングートを使用すること。
- (2) 正面2階メインスタンド入口は開放しない。高体連 WEB ページの『競技会の運営方法について』  
■2022年7月以降の競技会(大阪高等学校体育連盟主催大会)における入場と出場方法についてを必ず読んでおくこと。

### 2. 練習について

- (1) 練習はバックスタンド後方(東側)の練習走路を使用すること。走る方向は北から南の一方通行とし、逆走は禁止する。個人のハードル等は持ち込まないこと。また、ゴムチューブ等を使用したスピード練習は禁止する。また、危険防止のため日傘の使用は禁止とする。
- (2) バックスタンド後方(東側)の練習走路でのハードル練習は禁止し、競技開始前のハードル設置後に行うこと。
- (3) 競技開始前のトラック練習は、競技開始の30分前までとする。  
[ホームストレート・バックストレート]  
○1・2レーン=長距離周回練習 ○ジョグ=レーン外  
○3~5レーン=コーナーからのスプリント練習 ○6~9レーン=直線からのスプリント練習  
※順番待ち等は、密を避けるように距離を保って行うこと。
- (4) 競技場でのリレー練習は一切認めない。
- (5) メディシンボールなど、物を投げる練習は、競技場の内外を問わず長居公園内全体で禁止する。
- (6) 走高跳、走幅跳、三段跳は準備が整った後、競技役員の指示で練習してもよい。
- (7) 競技場内での練習は、競技役員の指示に従うこと。

### 3. 招集について

- (1) 招集所は室内練習場に設ける。招集所への携帯電話・スマートフォン・タブレット等の通信・録画機器(タブレット等)の持ち込みは禁止する。スマートウォッチ等も通信機能を停止しておくこと。
- (2) 一次招集(招集所)
  - ・トラック種目 : 競技開始時刻の 60 分前開始 30 分前完了
  - ・フィールド種目 : 競技開始時刻の 90 分前開始 60 分前完了 (棒高跳は 120 分前開始 90 分前完了)
  - ・上半身競技服装(アスリートビブスを付けていること)になり、競技で使用する靴のチェックを受け、トラック競技では腰ナンバーカードを受け取る。・種目ごと・ラウンドごとに一次招集を受けること。
- (3) 二次招集(現地)
  - ・トラック種目 : 競技開始時刻の 15 分前開始 10 分前完了
  - ・フィールド種目 : 競技開始時刻の 50 分前開始 40 分前完了 (棒高跳のみ 70 分前開始 60 分前完了)
- (4) 一次招集および二次招集に遅れた競技者は、出場する意思がないものとみなし欠場と処理する。
- (5) 点呼の代理は認めない。ただし、同じ時間帯に競技が行われる可能性がある場合には、第1種目の一次招集開始までに「多種目同時出場届」を持参し必ず提出すること。なお、第1種目は一次招集を受けなければならないが、提出をした第2種目は、一次招集および二次招集とも代理をたてる必要はない。ただし、ラウンド進出により同じ時間帯に競技が行われる可能性が発生した場合には、すみやかに多種目同時出場届を招集所へ必ず提出すること。
- (6) リレー競技について
  - ①オーダー用紙はプログラム巻末の所定の用紙を使用し、各ラウンドの第1組の一次招集完了時刻の 60 分前までに招集所に提出すること。
  - ②一次招集時は4人揃って受け、他種目に出場している時は、「多種目同時出場届」を提出すること。
- (7) やむを得ず欠場する場合は、「欠場届」を一次招集開始時刻までに招集所へ必ず提出すること。

### 4. 競技進行について

#### (1) 番組編成およびラウンドの通過について

- ①トラック競技の予選のレーン順、およびフィールド競技の決勝の試技順はすべてプログラム記載の順番とする。なお、準決勝以降の組み合わせはすべて番組編成員が行い、場内スクリーンに表示するとともに、大阪高体連 WEB ページに掲載する。
- ②トラック競技における次のラウンドへの進出者について
  - (ア) (+ $\alpha$ )を決めるとき、その最下位で同タイム(1/100 秒単位)が出た場合、写真を拡大して 1/1000 秒単位の実時間で優劣の判定をする。
    - ・レーンに余裕がある場合・・・同タイム(1/1000 秒単位)の競技者の進出を認める。
    - ・レーンに余裕がない場合・・・本人または代理人により抽選する。
  - (イ) 同着により着取りによる進出者が増えた場合は、(+ $\alpha$ )での進出者数を減らす。
  - (ウ) 800m とレーンを使用しない種目は、同タイム(1/1000 秒単位)の競技者は全員次のラウンドに進める。

#### (2) 競技について

- ①競技結果は、場内アナウンスおよび場内スクリーンで発表するとともに、大阪高体連 WEB ページに掲載する。なお、競技結果が場内スクリーンに確定 (official) 表示された時点を正式発表とする。
- ②当該種目出場者以外は競技エリアに立ち入ることはできない。
- ③スパイクのピンの本数は 11 本以内とし、9mm 以下のものを使用すること。走高跳・やり投については 12mm 以下とする。また、直径は先端近く(少なくとも長さの半分)で、4mm 四方の定規に適合するように作られていなければならない。

- ④アスリートビブスは必ず胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技は胸部または背部だけでよい。
- ⑤男子 5000m、女子 3000m、および男女競歩は別ビブスを使用する。
- ⑥トラック競技では、腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方に付けること。なお、4×400mの第2走者・第3走者は、次走者の待機順を明確にするため、右側に腰ナンバーカードをつけること。腰ナンバーカードは主催者で用意する。
- ⑦トラック競技の短距離種目では、安全のためフィニッシュ後も自分レーン（曲走路）を走ること。
- ⑧男子 5000m・女子 3000m はグループスタートとする。
- ⑨男子 5000m は 18 分 30 秒、女子 3000m は 13 分 30 秒、3000mSC は 13 分、5000m 競歩は男子 35 分・女子 38 分を超えて次の周回に入ることにはできない。トラック審判長が競技を打ち切る。
- ⑩ハードルの規格について 男子 1 1 0 m J H は高さ 0.991m・インターバル 9.14m、  
女子 1 0 0 m Y H は高さ 0.762m・インターバル 8.50m で実施する。
- ⑪競技エリア内に通信機器（スマートフォン・スマートウォッチ・携帯電話・無線機等）やビデオ撮影機器（タブレット等）を持ち込んではいならない。また、コーチ席を除く競技エリア内で、助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。フィールド競技中に競技者が、それ以前の試技映像をコーチ席以外の場所から見ることや、録画再生機器等をスタンドからの手渡しや吊り下げ等により、競技エリア内に持ち込むことは認めない。
- ⑫**競技エリアでは危険防止のため日傘の使用は禁止とする。**
- ⑬投てき競技と棒高跳の滑り止めは、主催者で準備しないので個人で持参すること。

(3) 高さの種目 バーの上げ方は下記のとおりとする。

走 高 跳	男子	1年	1m55(練)	60	65	70	75	以後 3cm ずつ上げる
		2年	1m60(練)	65	70	75	80	以後 3cm ずつ上げる
	女子	1年	1m25(練)	30	35	40	45	50 以後 3cm ずつ上げる
		2年	1m30(練)	35	40	45	50	以後 3cm ずつ上げる
棒 高 跳	男子	1年	2m60 から	以降 4m00 まで 20cm ずつ	4m00	以後 10cm ずつ上げる		
		2年	3m00 から	以降 4m00 まで 20cm ずつ	4m00	以後 10cm ずつ上げる		
	女子	1年	2m00 から	以降 10cm ずつ上げる				
		2年	2m00 から	以降 10cm ずつ上げる				

決勝で最後の一人となり、優勝者が決まるまでは、上記のバーの上げ方とする。

同記録による 1 位決定と近畿大会出場権を決定するバーの上げ下げは走高跳 2cm、棒高跳 5cm とする。

男子棒高跳および女子棒高跳の練習は現地にて跳躍審判の判断により設定する。

(4) 跳躍種目 競技場所および踏切板位置について

- ①男女走幅跳および男子三段跳は、メインスタンド前ピットで実施する。1組をAピット(トラック側)、2組をBピット(スタンド側)とする。それ以外の種目は1組(1ピット)で実施する。
- ②女子三段跳はバックスタンド前ピットで行う。棒高跳は、第二曲走路外側の北ピットで行う。  
踏切位置(砂場から) 男子三段跳 1年…11m 2年…11m 女子三段跳 1年…9m 2年…10m

(5) 投てき種目について

砲丸投を除き、投てき種目について、次の記録以下の者はベスト記録のみ計測する。

種 目	男子 1 年	男子 2 年	女子 1 年	女子 2 年
円盤投	20m	25m	20m	20m
ハンマー投	20m	30m	20m	20m
やり投	30m	35m	20m	20m

## 5. 競技用具について

- (1) やり及びポール以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。
- (2) やりは競技場備え付けのものを準備するが、検査を受けて自己の物を使用しても良い。検査は、競技開始時刻の 90 分前から 70 分前までに受けるものとし、器具庫へ持参すること。

## 6. 抗議について

抗議は日本陸上競技連盟競技規則により、当該校顧問から総務員に口頭で申告し、総務員が審判長に取りつぐ。

## 7. 式典および表彰について

- (1) 男女別・学年別学校対校を行う。種目得点は 1 位 8 点～8 位 1 点とし、1・2 年の得点およびリレーの得点を合計して総合優勝を決定する。
- (2) リレーを除く種目で 6 位までの入賞者に賞状を授与する。ただし、種目別表彰は行わない。賞状は成績発表後、正面エントランスの表彰係まで取りに来ること。
- (3) 大会最終日に総合表彰式を行ない、男子総合、女子総合の 8 位までと、男女学年別総合 3 位までの学校に、賞状を授与する。
- (4) 男女学年別に優秀競技者賞を授与する。
- (5) 男女総合優勝校の顧問に部長賞を授与する。

## 8. 近畿ユース大会出場について

- (1) 近畿ユース大会受付は正面ロビーに設置する。
- (2) 近畿ユース大会への出場者は各学年、各種目 3 位までの入賞者とする。ただし、男女走高跳および男女棒高跳は 3 位までに入賞した 3 名とする。リレー種目は 6 位までとする。
- (3) 出場が決定した競技者（チーム）は、受付にて申し込みを済ませること。
- (4) リレー種目のチーム（学校）は、受付でリレーオーダー用紙を受け取り、オーダーを記入後、顧問のサインを得て申し込みを行うこと。

## 9. 競技場の使用について

- (1) 競技者・付添等の関係者は指定された出入口から入退場すること。
- (2) 感染防止に留意し、声を出しての応援（ラップタイムの読み上げを含む）、集団での応援は禁止とする。また、スタンド最前列及び中央通路での立ったままの観戦も禁止する。
- (3) 横断幕、ノボリの設置はすべて禁止する。
- (4) 以下の箇所にはテントを設置しないこと。
  - ①南北の芝スタンド（土盛スタンド）の中段より下
  - ②屋根の下（記者席）から 100m スタート側の中央通路より上の部分を除くメインスタンド
  - ③ビデオ監察の撮影の支障となる場所
  - ④その他、コーンおよびトラバーで規制された区域なお、テントを設置する際に、ロープ等が通路にかからないようにすること。
- (5) メインスタンド記者席は座って観戦してもよいが、占有（場所取り）は禁止とする。
- (5) 使用した場所は各学校で責任を持って清掃し、**ゴミ等は必ず持ち帰る**こと。
- (6) トラック、フィールドおよび練習走路以外でのスパイクの着用は禁止する。
- (7) 感染防止のため、更衣室の使用は短時間（5 分程度）とし、清潔に使用し私物を置かないこと。

## 10. その他

- (1) 競技場の各所にアルコール消毒液を準備するが、「マスク着用・うがい・手洗い」など、各自で感染防止対策を徹底すること。
- (2) 顧問の受付がない学校の競技者の出場は認めない。
- (3) 競技中に起こった怪我等は、本部の医務室で応急処置のみを行う。
- (4) 盗難の発生や忘れ物に注意し、荷物等の管理は各校で十分注意すること。
- (5) 外国人留学生が大会記録を更新した場合の取り扱いは、大会記録（国際）として認定する。
- (6) Jアラート警報が発令された場合は、競技を中断する場合がある。

### 個人情報の取り扱いについて

プログラム記載の個人情報（名前、学校名など）および大会結果は、新聞および大阪陸上競技協会・大阪高体連陸上競技専門部のWEBサイト等に記載されますが、本大会関係以外には一切使用しません。また、本大会が認めた報道機関が撮影した映像が中継・録画放送されることがあります。なお、本大会では競技の様様をYouTubeで限定公開により配信します。内容は場内スクリーンの映像と同じものです。

＝ 周 知 板 ＝

### 第55回近畿高等学校陸上競技対校ユース選手権大会について

期 日：9月16日（金）～18日（日）

場 所：神戸市・ユニバー記念競技場（神戸市総合運動公園）

総監督：船津哲史（大塚）